

国際教育セミナー開催のご案内 (第二次案内)

紅葉の季節、いかがお過ごしでしょうか？このたび、The Daiwa Anglo-Japanese Foundation から支援を頂き、英国リテラシー協会 (UKLA: the United Kingdom Literacy Association) のデジタル・リテラシー研究会 (Digital Literacies Special Interest Group) と協賛で、奈良教育大学を会場として、下記の国際教育セミナーを開催することになりました。

子どもたちを取り囲むメディア環境は大きく変化しています。携帯電話やインターネットを用いたゲームほか、様々な新しいコミュニケーション・メディアと子どもたちは接しています。最近では、携帯小説など、このような新しいメディアを用いた読み書きの変化を反映した文化も表れてきています。そのような変化の著しい中で、どのように子どもたちと一緒に、どのように今後の読み書き能力 (リテラシー) を考えていけばいいのか、を英国の研究者と豪州の研究者と共に考える機会をもつことになりました。今後の読み書き能力に関心のある方 (教育関係者、保護者、地域の皆様) は、是非この機にご参加ください。文化都市古都、奈良で皆様をお待ちしております。



学校・家庭・地域において今後の子どもたちのデジタル・リテラシーを考える The International Seminar for the Development of Digital Literacies in Schools, Homes and Communities.

開催日時 2008年12月5日(金) 1:30~17:00+ (5 December, 2008 pm.1:30 - 5:00+)

会場 奈良教育大学 大会議室 (奈良市高畑町)

(後援: 奈良教育大学 国際交流・地域連携委員会 及び 大学院教職開発専攻)

< セミナー登壇者 >



(1) ミュリエル・ロンビンソン氏 (Muriel Robinson)

Principal, Professor, Bishop Grosseteste University College Lincoln, UK

激動の世界、教室の内と外で、テクノロジーを教師はいかに意図的に利用するのか？

(When worlds collide: intending teachers' use of digital technologies in and out of the classroom)



(2) クレア・ドウデル氏 (Clare Dowdall)

Lecturer, University of Plymouth, Devon, UK

オンライン上で文章を書く活動を通じて社会的なアイデンティティの確立を問う

(Performing and negotiating social identities through online text production)



(3) ヴィクトリア・カーリントン氏 (Victoria Carrington)

Professor, Research SA Chair Hawke Research Institute for Sustainable Societies

Centre for Literacy, Policy and Learning Cultures, University of South Australia, AU

デジタル・リテラシー、アイデンティティ、そして参加を考える

(Digital literacies, identities, and participation)



(4) ロージー・ケリン氏 (Rosie Kerin)

Lecturer in literacy in the School of Education and a researcher in the Centre for Studies in Literacy, Policy and Learning Cultures at the University of South Australia, AU

デジタル・ポートレート：教師志望学生のリテラシーを把握する

(Digital Portraits: Capturing Student Teacher Literacies)



(5) 小柳和喜雄 (Wakio Oyanagi)

Professor, School of Professional Development in Education, Nara University of Education, Japan

日本における子どもたちのネットコミュニケーションと教師教育の現在

(A Trend on Children's Communication on Net and Teacher Education in Japan)

(1) ミュリエル・ロンピンソン氏 (Muriel Robinson)

<Abstract:概要> 「教室の内と外で、テクノロジーを教師はいかに意図的に利用するのか？」

このプレゼンテーションでは、Prensky (2001)による「デジタル・ネイティブとデジタル・イミグラント」という概念や Rheingold (2003)が、デジタル文化や新しいテクノロジーに従事する次期世代の方法について考えるために用いた「早期適応者」という概念を説明しながら、子ども、若者、メディア、学校の内外での学習に関する諸問題を取り上げます。そして、若者がそこで何をすることができるのかその特徴となるモデルの概念を探求し、新しいテクノロジーが教室学習に損害を与え、不適切であると思われる実践と対比します。新しいテクノロジーを教師が意図的に利用している取り組みやそれが教室実践にどのような影響を及ぼしているかについて詳細なレポートを提出している英国やカナダの研究を取り上げながら説明をします。これらのデータは、教師志望の学生が、日常生活で楽しむためにテクノロジーを用いている利用者に留まるのか、教師という専門職の立場でこれらを用いたりできるようになるのかといったことを論議するために活用されることになります。教師志望学生は学校外ではデジタル・ネイティブになり、学校内では、世界を見るためにデジタル・イミグラントの方法を採用するかもしれません。このプレゼンテーションでは、この種の問題を考える出発点となる考えを提示します。

<Brief Bio:研究関心>

Muriel Robinson was nominated onto the Council by GuildHE in 2008.

Among her external roles as Principal Muriel is a governor of two local schools, a member of the Lincolnshire Assembly Executive Group, a Vice-Chair of GuildHE and co-ordinator of the Church Colleges and Universities UK chapter of CUAC, Colleges and Universities of the Anglican Communion. Muriel has served on national committees such as the Burgess Group and currently chair the Credit Issues Development Group.

Muriel's research interests remain in the area of media with particular reference to the competences and confidence of young people and intending teachers and to the contrasts between the ways different generations engage with new media.

(2) クレア・ドウデル氏 (Clare Dowdall)

<Abstract:概要> 「オンライン上で文章を書く活動を通じて社会的なアイデンティティの確立を問う」

このプレゼンテーションでは、2人の10歳前の女の子が、オンラインの社会的なネットワーク(SNS)で文章を書くことを通じて、自分の社会的アイデンティティをどのように構築しているかを例にあげ、述べるものです。現在、英国では、Bebo や MySpaceといった社会的ネットワークのサイトが多くの若者に用いられています。このサイトの中で作られるテキストは、そのサイトの中の子どもたちによってピアレビューされ、結果、その子どもたちのポジションを決めていくことになっていると言われてます。つまり、このテキストは、子どもたちが社会的アイデンティティを確立する活動やポピュラーカルチャー創造のキーとなっています。Bebo や MySpace で生み出されるテキストは、文字、写真、音声、動画といったインタラクティブでマルチモードの洗練された情報を取り扱っています。このテキストのもつアフォーダンス、モノ性、著作・所有権などは、英国の学校の中で子どもたちが通常に求められる、伝統的な紙ベースのテキストやデジタルテキストとは異なる意味を持っています。継続的な調査から得られたデータに基づいて、社会的ネットワークの中で生み出されるテキストのもつアフォーダンス、モノ性、著作・所有権とはどのようなものが明らかにされます。さらに新しいテクノロジーによって媒介され、かつ子どもたちと共に作りだしていくリテラシー実践(言葉の教育活動)が、教師によってどのような意味を持つかが述べられます。

<Brief Bio:研究関心>

Dowdall is currently engaged in doctoral research that explores pre-teenage children's digital text production and social identity work in online contexts. Her research interests pivot around the tensions that can be perceived between the formal curriculum for young children's education and their creation and engagement with texts in their own online spaces. In particular, she is keen to explore how children perform and negotiate their sense of self using digital texts as key platforms for the rehearsal, performance and negotiation of their social identities. Recently she has written about children's voluntary out-of-school text production, considering the features that may impact on this informal process. In addition, she has written about the tensions that can be observed between children's digital text production in school and non-school contexts.

(3) ヴィクトリア・カーリントン氏 (Victoria Carrington)

<Abstract: 概要> 「デジタル・リテラシー、アイデンティティ、そして参加を考える」

このプレゼンテーションでは、デジタルテクノロジーを用いて産出され、読まれるテキストのタイプに特に目が向けられます。そして、デジタルテキストの範囲についてレビューが行われながら、Henry Jenkins et al (2006)が、「参画する文化」と呼んでいるものに向けてシフトしていくことの意味について述べられます。つまり、このシフト、新しいデジタルテクノロジーの到来は、我々がリテラシー実践（言葉の教育活動）として理解している方法や、市民としてある範囲の社会・経済・政治的な公共の討論の場に効果的かつ分析・批判的に関与していくために必要とされるスキルのタイプについてどのような意味を持つかが述べられます。

<Brief Bio:研究関心>

Victoria writes extensively in the fields of sociology of literacy and education and has a particular interest in the impact of new digital media on literacy practices both in and out of school. Her research interests in the field of digital technologies and digital cultures have informed much of her work around early adolescents and youth. Her work has drawn attention to issues of text production, identity and literacy practices within the affordances of digital technologies and new media. She is co-editor of the well-known international journal *Discourse: Studies in the cultural politics of education* and sits on the editorial boards of *Literacy*, the new journal *Digital Culture & Education* and the *Journal of Early Childhood Education*.

(4) ロージー・ケリン氏 (Rosie Kerin)

<Abstract: 概要> 「デジタル・ポートレート：教師志望学生のリテラシーを把握する」

このプレゼンテーションでは、the University of South Australia の教員養成プログラム（初等学校教員・中等学校教員）のコアとなるリテラシーに関するコースで、ここ3年間に渡って、アセスメント（学生が評価を得るためにその習得結果をデジタルで示す活動）のキーとしてデジタル・リテラシーが求められてきたこと、そこから何が話題となってきているかについて述べます。デジタル・リテラシーが求められる課題の合理性、それと関わって問題となることや模範例の調査結果、デジタルテキストを産出する要求に対する教師志望学生の反応などが、そこで話題として取り上げられます。とりわけ、アセスメントのためにデジタルテキストを産出することの価値や要請に重きを置くことが、教師志望学生の反応に二極分化を引き起こしていることに目が向けられます。デジタル課題について職能成長や個人の発達のために重要とみなす学生グループと、それは不公平で、行き過ぎで、不適切であるとみなしている学生グループがいることについて、教師教育者はどのように応え、考えていくべきかが述べられます。

<Brief Bio:研究関心>

Kerin's key research interests include the integration of digital technologies and literacies in English/Literacy classrooms from the middle years of schooling through to tertiary settings, and implications for educators' professional learning and identities. Current and upcoming projects include investigations into the pedagogical challenges and possibilities of Second Life and virtual worlds for tertiary education; interventions in senior secondary schooling to engage and support students who have not met literacy benchmarks in the middle years of schooling; and the implications of mandated literacy assessment on the professional lives and practices of classroom teachers in Australia and Canada.

(5) 小柳和喜雄 (Wakio Oyanagi)

<Abstract: 概要> 「日本における子どもたちのネットコミュニケーションと教師教育の現在」

このプレゼンテーションでは、日本において学校内外での子どもたちのネットコミュニケーションを、学校教育や教師教育が今どのように理解し、位置づけ、それを考えようとしているのか、何がなされ、何がなされていないのかについてレビューするものです。

学校や教員養成、現職教育の研修などで、実際に成果を上げつつあることと、課題となっていること、まだ関心として取り上げられていないことを研究地図を描きながら述べます。

<Brief Bio:研究関心>

Oyanagi's key research interests include the media pedagogy and ICT literacy for teacher. He has tried to identify the educational policy on ICT literacy for teachers by using the method of the comparative research that takes up Britain and Germany, etc.

< 進行 >

13:00 ~ 13:30 受付

13:30 柳澤学長挨拶と本セミナー開催の経緯と趣旨説明 (Welcome message by Prof. Yanagisawa, President of Nara University of Education)

13:40 ミュリエル・ロンビンソン氏 (Muriel Robinson) 講演 (40分) 質疑 (10分)

14:30 クレア・ドウデル氏 (Clare Dowdall) 講演 (40分) 質疑 (10分)

_____ 14:30 ~ 14:45 (Refresh) 休憩 _____

14:45 ヴィクトリア・カーリントン氏 (Victoria Carrington) 講演 (40分) 質疑 (10分)

15:35 ロージー・ケリン氏 (Rosie Kerin) 講演 (40分) 質疑 (10分)

16:25 小柳和喜雄 (Wakio Oyanagi) 講演 (20分) 質疑 (10分)

16:55 まとめと閉会のことば

17:00+ 閉会

< 参考 >

参加費は無料です。

当日、セミナーで発表される内容については、発表資料の中にその翻訳がなされ、配布されます。

質疑応答について、翻訳が入ります。



< 参加申し込み >

参加を希望される方は、お手数ですが、配布資料の印刷の関係により、12月1日(月)までに電子メール、または fax で下記の内容をあらかじめ、問い合わせ先までお知らせください。

お名前 (ふりがな)	
ご所属 (教育関係者の場合)	
ご連絡先 (電話)	
(電子メール)	
その他 (お気付きの点)	

< 問い合わせ先 >

630-8528 奈良市高畑町

奈良教育大学

小柳和喜雄 (おやなぎわかお)

0742-27-9295 (fax 兼用)

oyanagi@nara-edu.ac.jp

< 交通アクセス >

近鉄奈良駅から市内循環バス1番あるいは2番に乗っていただき「高畑町(奈良教育大学前)」で下車。(料金180円, 約10分)

JR奈良駅から市内循環バス1番あるいは2番に乗っていただき「高畑町(奈良教育大学前)」で下車(料金180円, 約15分)

位置図 Location

